



## 第17回日本医療マネジメント学会学術総会 ランチョンセミナー3

# 大阪発 認知症から考える “地域づくり”

2015年6月12日(金) 12:00~13:00

〈会場〉 グランキューブ大阪(大阪国際会議場) 12F 1202(D会場)  
大阪市北区中之島5-3-51

座長



松下記念病院 放射線部 部長

**牛嶋 陽先生**

演者



大阪市立弘済院附属病院 神経内科部長  
認知症疾患医療センター長

**中西 亜紀先生**

セミナーは整理券制です。

整理券と引き換えにご入場いただきます。

セミナー開始後、整理券は無効となり、整理券なしの方も入場可能ですが。

【配布場所】5F 学会受付フロア

【配布時間】7:30~配布終了まで(最大11:30まで)

# 第17回日本医療マネジメント学会学術総会 ランチョンセミナー3

Japan Society for Health Care Management Annual Meeting

## 大阪発 認知症から考える“地域づくり”

中西 亜紀

大阪市立弘済院附属病院 神経内科部長／認知症疾患医療センター長

日本は、世界最速のスピードで高齢化が進み、平均寿命の最も長い国になった。そして近年、認知症に関する話題が連日のように新聞やテレビでとりあげられている。これは、高齢化と認知症が密接な関係があるためである。欧米では、2001年フランス、2004年オランダなどと早くから国レベルの認知症施策が打ち出されてきており、共通課題は、気づきから診断への流れ、ケアパス、介護の質と介護者支援、人材育成、権利擁護、終末期ケア、薬物療法の検討などであると考えられている。2013年12月にG8認知症サミットがロンドンで開催され、翌年11月に(G7)認知症サミット後継イベントが東京で開催された。日本はその席で総理大臣が認知症国家戦略の策定を指示したと述べ、2015年1月に「認知症推進総合戦略『新オレンジプラン』」が発表された。

大阪市については、全国的に都市部の高齢化が加速する中、高齢者世帯に占める独居・老老世帯が全国政令指定都市の中で最も多く、認知症対策が急がれる地域である。2008年にまず3区で認知症高齢者等支援ネットワークが設置され、現在では全市域にネットワークができてきている。ネットワークの構成メンバーや活動状況は区によりさまざまであるが、市民啓発活動のほか、認知症高齢者の早期発見、早期診断・治療システム作りや多職種連携の強化などが取り組まれてきており、昨年度は1区で認知症初期集中支援モデル事業が開始された。「認知症になっても安心して暮らせる街づくり」が言われてから久しいが、その実現には、地域に応じたシステムの構築や人材の確保・育成が急務であり、既存の機関や人材の有効活用が必須である。

Luncheon  
Seminar 3